

平成 26 年度 「第 6 回 松戸市子ども・子育て会議」 会議録（要旨）

1. 日時	平成 26 年 7 月 17 日（木） 18 時 30 分～20 時 30 分
2. 場所	松戸市役所 議会棟 3 階 特別委員会室
3. 出席者	<p><委員>（50 音順）</p> <p>飯沼委員、石井委員、石田委員、伊藤委員、海老原委員、大川委員、大熊委員、沖委員、小野委員、神谷委員、斉藤委員、鈴木委員、富永委員、奈賀委員、永瀬委員、成瀬委員、西委員、野中委員、文入委員、細井委員、森田委員、山口委員</p>
4. 傍聴者	7 名
5. 議事	<p>（1）第 5 回松戸市子ども・子育て会議 承認事項の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準制定を必要とする事項の条例案について <ul style="list-style-type: none"> ア) 松戸市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例 イ) 松戸市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例 ウ) 松戸市支給認定基準を定める条例 エ) 松戸市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例 ・分科会の設置について <p>（2）区域別の事業量の見込みと確保量について</p> <p>（3）計画策定の基本理念について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体系の柱と基本目標の設定について（グループ討議）
6. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・次回予定 平成 26 年 10 月 9 日（木） 18 時 30 分～20 時 30 分

1、開会

2、議事

○会議の成立

（事務局）

・総委員 22 名、全員出席。会議の成立を報告する。

○本日の傍聴の受け入れ

(事務局)

・7名の方の傍聴の申し出あり。入室を許可する。

○議事の録音について

・議事録作成のため、了承。

(1) 第5回松戸市子ども・子育て会議 承認事項の報告

(事務局)

・基準制定を必要とする事項の条例案について

ア) 松戸市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例

イ) 松戸市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例

ウ) 松戸市支給認定基準を定める条例

エ) 松戸市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例
事務局より、資料に添って説明。

ウ) の条例案は上程せず、規則として制定することを報告。

○分科会の設置について

(事務局)

前回の会議のご意見を受け、分科会を設置することを提案する。規則案については、分科会にてご意見をいただき、子ども子育て会議に報告する。分科会の構成については、資料1-4に記載した方々をお願いしたい。

(会長)

分科会の設置について承認。

(石井委員)

分科会について、この子ども・子育て会議とは別に集まるのか。今後、内容についてはどのようなことをしていくのか。

(事務局)

子ども・子育て会議の部分的なものとして、分科会を別に設ける。

内容については、教育・保育に関する分科会では、教育保育に係る条例が2つある。具体的な運用を規則に定めていくということで、その内容についてご意見をいただきたい。

放課後児童健全育成事業は、パブリックコメントで多くの皆様からご意見をいただいで

いることもあり、分科会でご意見をいただきたい。

(2) 区域別の事業量の見込みと確保量について
事務局より、資料に添って説明。

○意見交換

(海老原委員)

教育・保育の表の見方の質問だが、1 ページ H27 の3号認定の0歳児は不足量が-296とあるが、これは定員に対して利用意向が少ないので余っているということであり、H31には利用意向が増えてくるので、282人分不足する、という理解でよろしいか。

(事務局)

そのとおり。H27の量の見込みは305人だが、これは0歳児の場合4月に入所する人数が定員よりやや低く、段階的に入所していくので、実際のところ年度末になると定員を超過していくという傾向があり、他の年齢と異なった特徴である。

(海老原委員)

これは4月時点の定員と利用意向のため余っている形になっているが、年度の後半になると利用意向が増えているのが実態か。

(事務局)

そのとおり。

(海老原委員)

利用者支援事業というものが国から示されており、コンシェルジュやコーディネーターが該当すると思うが、松戸市子育てコーディネーター以外に利用者支援となりうる事業の考えがあるか伺いたい。

(事務局)

今回の資料は、9月末頃に県に報告する資料となる。利用者支援は量の提出がないため今回は省略している。実際に計画をつくる段階では、これから議論いただく様々な事業の量についても記載していくこととなるので、分けて考えていただければと思う。

(会長)

今この時点では、アンケートの数値からの読み取りを含めた確保量というところで、ご

意見をいただきたいということになる。

(鈴木委員)

8 ページの 2 号認定の幼稚園在園児の一時預かりについて、うちの幼稚園では、夏休みをお盆期間除いて夕方までの預かりを始めるが、反響は大きい、採算をあわせるのが非常に厳しい。小金地域の H27 年度の量の見込みは、約 56,000 人もあるのか。量の見込みはアンケートからどう算出しているのか。

(事務局)

8 ページの 1 に算出方法の概要が載っている。幼稚園の預かり保育利用希望率に、働いている方の家族類型割合から導いた人口をかけて、さらに就労日数をかけて年間利用者数を算出している。地区別については、利用希望率、家族類型割合、人口それぞれに地区ごとの数字を使い算出している。

(石井委員)

放課後児童健全育成事業について、子どもは減ってくると思っていたが、実際の利用は増えている。今後も相当数増えていくと推測し、私達の責任は大きいと思っている。私のクラブは学校が休みのときは何割か増え、朝から夕方まで保育園並みの預かり方をしていのだが、施設・整備・働く人達の問題のような内容的なことはあまり問われていないので、考えていく必要がある。

(会長)

現場を担っている方から数値と現状のお話が出たが、他にあるか。

(文入委員)

11 ページのファミリーサポートセンターの量の見込みについて、市全体の H27 年度低学年約 7,900、高学年 722 となっているが、放課後児童クラブができ高学年も対象にしてきているため、ファミリーサポートの利用が少し減っていると聞いた。この数値の算出方法を、概要ではなくもう少し詳しく聞きたい。

(事務局)

小学生の保護者へのアンケートで、子どもの預かりでどんな事業を利用したかという問いに、ファミリーサポートセンターと回答した方の数値のパーセントを人口でかけ、さらに利用意向日数をかけて年間利用者数を算出している。それぞれ低学年と高学年別に出した。定員は、ファミリーサポートセンターに定員がないため、25 年度の実績を使用した。実際に小学生が利用している件数である。

(石井委員)

松戸の子どもの数自体は減るだろうとみていたが、支援事業に対して要望は強くなり、要望の比率が高くなってきている。それをこれからの事業計画に見込んでいく必要がある。そして、数字だけで見ていくことでは出来ない問題もあると思う。市としては数字を出していくしかないだろうが、現場の実際の状況も捉えながら、対応できる体制作りを今後もしていく事が大切だ。

(会長)

量の見込みと確保量で、確保する量を現実的に今後も把握していきたいというご意見である。

(3) 計画策定の基本理念について

- ・体系の柱と基本目標の設定について
事務局より、資料に添って説明。

(会長)

資料4をもとにグループ討議という形で進めていく。基本目標、施策の方向、施策、取り組みの方向性、と事務局でまとめた案をもとに整理を行う。最後に全体で意見を共有するため、討議内容の報告時間をとる。

○意見交換発表

(A グループ 沖委員)

要点は2つ。

1つ目は、人への投資。具体的には、子ども達とじかに接している事業者、ボランティアへ投資をすることにより、人と人、地域と地域がつながっていくのではないかと。将来に対する投資として人材育成、松戸市が松戸市民に対する投資、これが第一である。

もう1つは、指標。この計画を進めていくにあたって、最終的に指標を設定していく必要があるのではないかと。また、その指標はどのように導き出すかも考えたい。

最終的にこの計画の推進体制が入ってくるかと思うが、次回あたりの会議ではそのところを含めて議題としていただきたい。

(B グループ 小野委員)

Bグループは大きな枠ということで、基本目標と施策の方向を主に討論した。

まず全体の検討事項として、何々することができる、という表現を、こういうふうにした、というニュアンスの言葉に変えたほうがいいのではないかと。

基本目標については、大きく分けて、1番目は子ども、2番目は家庭と書いてあるが親、3番目は地域、と捉えた。項目が非常に説明的なので、キャッチフレーズ的に、子どもいきいき、親がいきいき、地域がいきいき、にしたらどうか。内容がわからなくなるという意見がでたが、施策の方向で説明し、基本目標と施策の方向をセットで考えればよい。

施策の方向について、子どもの3つ目「子どもが自分を信じる力をもてる」は分かりにくいので、「自分の力を発揮することができる」の方がいい。親の1つ目「子育ての充実感を持つことができる」は、自分だけが充実しているような独りよがりのニュアンスになると困るため、「子育てを楽しめる」というニュアンスの方がいい。一番議論になった親の2つ目、「家庭の子育て力が向上する」は非常にわかりにくいので、環境面と親の育ちの2つに分けた。親が育っていかないと、子どもが家庭の中で伸び伸びゆっくりできない。環境面では子どもの健康面とか経済面とか環境の支援をする、整えるということ。親の育ちとしては、子どもの育ちについて学ぶ機会をつくる。それに基づいて出産や子育てがライフプランに結びつくための学びの機会をつくる。というふうにふたつに分けたらどうかと考えた。親の3つ目「特別な支援が必要な家庭が支援を受けることができる」だが、「誰もが必要な支援を受けることができる」とした方がいい。親の4つ目「子どものために子育てと仕事を両立することができる」は、仕事とするよりも社会活動全般をさした言葉がいいのではとの意見もでたが、両立する環境作りが必要と文言を変えたほうがいいのではないかと意見もでた。地域は、時間がなくあまり討論できなかったが、街づくりをする、地域づくりをするという言葉はどこかおかしいのではないか。地域づくり、街づくり、としたほうがいい。

施策はあまり踏み込めなかったが、先ほどの環境面と親の育ちの2つに分けるといふことと、子育てと仕事を両立するところをワークライフバランスの充実とまとめたらい。

(C グループ 神谷委員)

Cグループで最初に話題にしたのは、この体系案は、重複したり、位置が違ったりするので、もう少し目標と施策、施策の方向性を整理して柱を立てていく必要があると考えた。

基本目標の「子どもの権利が尊重され、心豊かに育つことができる」は、基本課題だ。日本は子どもの権利条約の委員会から、先進国の中で一番指摘を受けているのが日本と言うくらい厳しい指摘がある。「子どもが家庭で安らぐことができる」は、安らげていない。今、家庭を幸せな場所とあまり思っていない子どもが多い。さらに、お母さんのなかでも子育てに不安をもっている方が多い。タイトルとしては安らぐというより、「家庭の子育て力が向上する」というような一言でどうかということ少し変えた。「地域の特色と活力を生かし、子どもと家庭を支える」これはもう松戸は独特なものがあるわけだから、これをしっかり語っていく。

施策の方向は、なるべく3文節以内くらいにおさえた方がよい。「子どもが自分を信じる力をもてる」は、統計によれば、今の子ども達は自分に自信がもてない、自己肯定感を持

っていない子どもが圧倒多数である、そういう事実があるから、「子どもが自分に自信をもてる」がいい。家庭の子育て力では、「子育ての充実感を持つことができる」「家庭の子育て力が向上する」は似ている。内容を見ると、親子が安心して、言ってみれば、子育てされることができる、「親子ともども安心して子育てできる」という事ではないか。次は、「支援が必要な家庭の求めに応じた支援を受けられる」という言い方でCグループは表現した。「子どものために子育てと仕事を両立することができる」は、「子育てと仕事を両立することができる」とした。地域の2つ目は、「街づくり」と「地域づくり」は似ているが、「地域づくり」は「子どもからつながる」ということでニュアンスが違うのでいい。

施策は、施策の方向に対し、3つずつという作り方をした。「子どもへの虐待」は、細かい項目だから取り組みの方向性へ移し変えた方がいい。「子どもが自信を持てる」は、「子どもが積極的に参画、活動できる機会をつくる」以外に、「子どもの不安や悩みを相談できる場をつくる」を加えた。それから「子どもが自信がもてるような親を育てる」。つまり親をそうしない限り、子どもが自信をもてるはずがないという議論がされた。「子育ての負担感を軽減する」は、「子育ての悩みを共有できるような機会をつくる」と考えた。「親子が安心して」は、「子どもの健康を守る」「妊産婦の健康を守る」「子どもの育ちについて学ぶ機会をつくる」の3つを1つに。「妊娠中から親と子の心と身体の健康を守る」にまとめた。「特別な支援」、ここは悩んだ。「ひとり親家庭」がひっかかり、10分ちかく議論したがまだまとまっていない。「両立支援」は、「子育てと仕事の両立支援のための保育・子育て支援を充実させる」と明確に書こう。2つ目は「働いている人への支援の選択肢を拡げる」が適切だろうというまとめで2つとした。「街づくり」は、「犯罪や災害から子どもを守る」で1つにまとめ、「身近な子育て情報にアクセスしやすい環境の整備」を加えた。「地域づくり」は、「豊富な知識・経験を持つ地域の人が活躍する機会を増やす」は取り組みの中におけばいいのではないかと。

(会長)

発表を聞くと、共通している部分もかなりあった。今日の意見は、事務局が集約しまとめるということによろしいか。ここで意見を戦わせたいところだが、時間ないため、事務局にお願いしたい。

以上をもって第6回松戸市子ども・子育て会議を終了する。

3. その他

(事務局)

・次回会議について

日時 : 平成26年10月9日(木) 18:30~20:30

場所 : 議会棟3階 特別委員会室

4. 閉会